創基150周年、「知の統合型大学」として グローバルに活躍する人材を育成し 「世界水準の研究大学」を目指す

横浜高等工業学校、横浜高等商業学校、横浜師範学校をルーツに持つ横浜国立大学は2024年、創基150周年、開学75周年を迎えます。「実践性・先進性・開放性・国際性・多様性」の5つの基本理念のもと、「新たな社会・経済システムの提案」「イノベーションの創出・科学技術の発展」に寄与する「知の統合型大学」として世界水準の研究大学を目指し、さまざまな大学改革を推進しています。

人文系、社会系、理工系など幅広い分野が国際都市・横浜のワンキャンパスに集い、専門性を重視した文理融合の教育を展開。神奈川県唯一の国立総合大学として、国際的に活躍し、社会に貢献する人材を育成しています。

梅原 出学長（うめはらいずる）

1987年富山大学理学部卒業。92年筑波大学大学院工学研究科物質工学専攻博士課程修了。専門は固体物性物理学-超伝導、磁性。横浜国立大学教授、副学長等を経て2021年より現職。

横浜国立大学

〒240-8501 神奈川県横浜市保土ケ谷区常盤台79-1 総務企画部リレーション推進課 TEL 045-339-3027 https://www.ynu.ac.jp/

多様性を新たな基本理念に加え、大学改革を推進

横浜国立大学は今年3月、大学憲章を改定し、従来の「実践性・先進性・開放性・国際性」に加えて「多様性」を新たな基本理念としました。「人間と学問の多様性を教育・研究の礎として、新しい価値を共創していくために、性別、障がい、国籍などを超えて、多様な学生と教職員が尊重し合い共生・協働していく場を構築し、一人一人が豊かにその力を発揮できるようにする」と謳っています。

梅原出学長は「多様性を重視していくことが、大学の今後の一つのプリンシプルになっていきます。大学改革においても多様性を重要視しており、経営戦略についても外部や女性の意見をしっかり聞いて大学の経営に反映させていきたいと考えています。まさに多様性の重視は大学の改革の柱でもあります。本学は『知の統合型大学』を目指していますが、多様であるからこそ知の統合が成り立つのです。社会にはさまざまなバウンダリ（境界）があります。これらをスパニング（統合）することが重要で、知の統合とはバウンダリ・スパナーだと言うことができます。これこそ本学の進む道です」と語ります。

神奈川県は国際都市・横浜をはじめ、3つの政令指定都市を抱える一方で、県西部など過疎化と高齢化の進む地域も抱えています。つまり、神奈川県は〝課題先進国〟である日本の縮図とも言えるわけです。横浜国立大学は、その神奈川県唯一の国立総合大学として、地域との結合、産業や行政などの多くのステークホルダーとバウンダリースパニングすることで、地域に貢献しコミットしているのです。「地域に貢献することで日本の縮図に対応しています。すなわち地域貢献という視点は、世界への貢献でもあります」と梅原学長は説明します。

こうしたコンセプトのもと、2024年に創基150周年・開学75周年を迎える横浜国立大学は、横浜の地にワンキャンパスを置く強みを生かし、「新たな社会・経済システムの提案」「イノベーションの創出・科学技術の発展」に寄与する「知の統合型大学」として「世界水準の研究大学」を目指しています。

その一環として2021年に台風科学技術研究センターをオープンしました。本学のみならず国内の他の研究機関の多様な知を結集した文理融合による日本初の試みです。また、新たなフィールドで未来創生に貢献する「YNU新湘南共創キャンパス」創造事業(1)や、世界で活躍する優れた人材の養成と体育施設の一体的改修による学生支援事業などを実施する計画です。

多彩な研究拠点を擁し先端的研究を実践

近年、SDGsに象徴されるように地球規模の環境問題が重要な研究テーマになっていますが、横浜国立大学では他大学に先駆け、環境と情報を基軸にした「大学院環境情報研究院・学府」を2001年に立ち上げたのをはじめ、幅広い地球温暖化に関する研究や、脱炭素社会を実現するためのグリーン水素研究を先進的に実践してきました。一方、横浜国立大学の強みである工学系のテクノロジーを活かした医工連携にも注力するなど、多様な研究が進められています。

それらの幅広い研究を可能にしているのがYNU研究拠点です。研究者が独自に形成した研究グループの中から優れたものを認定する制度で、現在は25の拠点が認定されています。さらに今年4月には学部や大学院の枠を超え、さまざまな分野の研究者が集結した研究組織として「総合学術高等研究院（IMS）(2)」を設置しました。分野横断型の世界水準の総合学術研究を戦略的に集約し、研究に特化させた組織です。

環境系の教員を中心に社会系や人文系の教員とともに自治体と協力しながら生物圏の持続可能な発展の実現を目指す「生物圏研究ユニット」など、各ユニットが分野横断による多様性を活かし現代特有の問題・社会課題の解決に取り組んでいます。梅原学長は「こうした研究での取り組みが教育にも還元されると考えています」と話します。

専門性を担保した教育で文理融合の学びを展開

横浜国立大学の学部教育は、横浜の歴史と伝統に根ざした実学的色彩が濃いのが特徴で、中規模校ならではの柔軟性と機動力を発揮して、世界に通用する人材を育成しています。

「専門性を担保することは非常に重要です。国立大学として専門性を担保できるような教育体系を構築することは、どんな時代になってもはずしてはいけないと思っています。その上で、文理融合的な教育を展開していくことに意義があります。その点で本格的な文理融合型の学びは大学院からスタートすると言えるでしょう」（梅原学長）

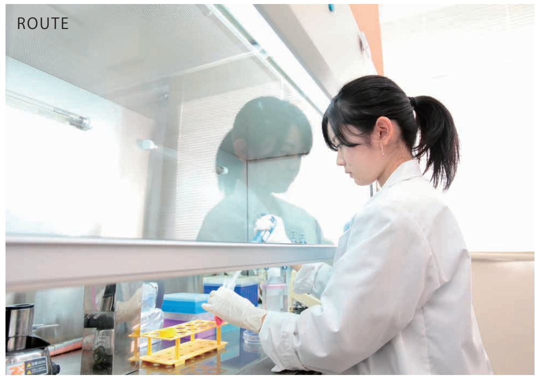
それを如実に表しているのが、修士課程の大学院先進実践学環(3)です。人文科学系や社会科学系の学生も選びやすい研究テーマ群が設定されており、確かな専門性に基づく先進的な文理融合教育が展開されています。それに繋がる学部段階での連携教育プログラムとして、経済学部と経営学部の連携によるデータサイエンス教育「DSEP」と、法学・政治学をベースに経済・経営学を学ぶことができる「LBEEP」を用意しています。また、理工学部では1～3年生が早い段階から研究室に入り、先端研究に取り組むことができる「ROUTEプロジェクト」も実施しています。

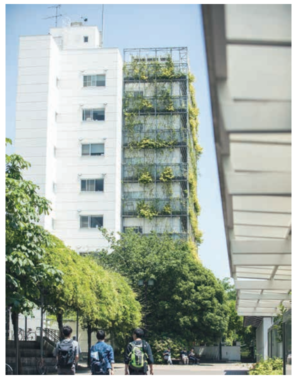
さらに、ポストコロナを視野に教育の国際展開に力を入れています。2022年度には「大学の世界展開力強化事業」に「レジリエントな社会への変革をリードする産官学連携ヨコハマ国際教育プログラム～横浜の地域力を活用した実践グローバル教育による日印豪ブリッジング人材の育成～」が採択されました。今後、インド・オーストラリアとの国際共修プログラムを構築し、持続可能な未来社会を創造するSX人材育成に取り組みます。そして、来年4月からは英語と日本語を共通言語として学士号を取得できる都市科学部のグローバル教育プログラム「YOKOHAMAソクラテスプログラム」がスタートします。

もう一つ特筆されるのが「生物圏保存地域を活用した持続可能な社会のための教育」プログラムが2022年度にユネスコチェア(4)に選定されたことです。これに伴い、全学部横断型MAB／SDGs副専攻プログラムも始まりました。

〝よい風が吹く〟キャンパスで地球規模の課題に挑戦

横浜国立大学は「学生第一」を標榜しています。梅原学長は「横浜高等工業学校、横浜高等商業学校、横浜師範学校をルーツに持ち、多様な知と人がワンキャンパスに集まっています。しかも、非常に風通しがよく、ジェンダーの違いや障がいの有無といった垣根を取り払って、多様な若者が学べる環境を揃えています。文明開化発祥の地であり、グローバル企業が集まる国際都市横浜にありながら、緑豊かな落ち着いたキャンパスで、文理融合の教育を実践しています。横浜国立大学は、そんな横浜の地で、地球規模の課題に立ち向かう大学なのです。いろいろな個性を持った多様な若者を待っています」とエールを送ってくれました。





(1) YNU新湘南共創キャンパス創造事業

神奈川県、藤沢市、鎌倉市、湘南ヘルスイノベーションパーク、湘南鎌倉総合病院を中心とした「ヘルスイノベーション最先端拠点形成構想」に参画し、新フィールドでの健康長寿社会の実現に向けた教育研究拠点として「YNU新湘南共創キャンパス」を新設。新キャンパスでは、人びとの生活と医療・ヘルスケアに関わる研究活動と共に、地域に根差した教育を行う。

(2) 総合学術高等研究院（IMS）

英名はInstitute for Multidisciplinary Sciences。リスク共生社会創造センター、台風科学技術研究センター、豊穣な社会研究センター、次世代ヘルステクノロジー研究センターの４つのセンターと、共創革新ダイナミクス研究ユニット、生物圏研究ユニット、革新と共創のための人工知能研究ユニットの３つの研究ユニットで形成される。多様性の強化を図り、社会貢献や社会共創を強く意識した研究を進める。

(3) 大学院先進実践学環

国際社会科学府、都市イノベーション学府、環境情報学府、理工学府の４つの大学院の約180名の教員が500を超える授業を提供し、先進的な文理融合の教育研究を実践する大学院修士課程の学位プログラム。「知識の統合」を実施することで、Society5.0における新たな価値とサービスの創出・普及の場面で実践的に活躍できる人材を養成している。

(4) ユネスコチェア

知の交流と共有を通じて高等教育研究機関の能力向上を目的とするプログラムで、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）によって選定される。横浜国立大学のプログラムは、ユネスコの「人間と生物圏計画（Man and the Biosphere＝MAB）」の一環として、国内外でSDGsに即して活躍できる優秀な人材を育てるプログラムとなっている。